



春日井良いとこ一度はおいで！

何を隠そう、実は先生、知多中学校で勤務する前は岡崎市の学校に勤めていました！…別に隠すほどのことではない？ その通りです。知多中学校での勤務は今年で7年目になりますが、その前の岡崎市では中学校を6年、小学校で2年の合計8年を過ごしました（それまでは実家のある名古屋にいました）。ですから、春日井市民歴は、春日井で生まれ育ったみなさんよりも浅いことになります。

そんな先生が春日井市（知多中）で勤務を始めて10日ほど経ったころ、岡崎市の学校の離任式に出席することになりました。離任式では、岡崎の元気っ子たちに、春日井市はサボテンが特産なんだということや、小野道風という偉人の生誕地とされているということなど、にわか春日井市民のプライドにかけて「春日井自慢」をしてきたのですが、岡崎っ子たちの心には響かなかったようでした。そうですね。今思うと、離任式での先生のスピーチは、若干すべっていたかもしれません…恥ずかしい。



先生は名古屋市で生まれ、名古屋市で育ちました。そんな名古屋人の先生の目には、岡崎の人たちは、地域に対する強い愛着をもって見えました。徳川家康ゆかりの地であるということを誇りにしていましたが、名産品である八丁味噌をこよなく愛していました（実際に、岡崎の味噌煮込みうどんは本当においしかった）。先生が岡崎にいた頃は「オカザえもん」なる地元の“ゆるキャラ”がスターのような扱いを受けていましたし、「おかざきの心の歌」なんていうのも作られて、運動会や卒業式で演奏されたりしていました。保護者の方たちからは、子供たち以上に地元好きという印象を強く受けました。そういった思いが連綿と受け継がれている、素敵なまちだと思いました。

それから春日井市に引っ越してきた先生は、このまちのことをとても気に入っています。静かで住みやすい場所だと思うし、公園が多く子供たちを連れていく場所には困りません。名古屋駅や栄までの距離も近いし、mozoなどのショッピングモールも合わせれば、買い物に行く場所も多く、恵まれていると思います。

しかし、みなさんの先輩たちと話していてもどうにも地元自慢は聞こえてきません。「嫌いじゃないけど…何にもないし」みたいな返答が返ってくるだけです。それを聞いた先生は考えました。もしかして中学生のみなさんは、生まれ育った春日井市のことをまだよく知らないんじゃないだろうか、と。

そこでみなさんに1つ課題を出します。「春日井市の良いとこ見つけ」をしましょう！！ おうちの方に話を聞いてもいいですし、20日に行ったアンケートではほとんどの家庭にネット環境があるということだったので、パソコンを使って調べてもいいです。そうして分かった春日井市の良いところを、5・7・5のリズムにのせて詠みましょう。1人最低3句は作ってみてください。みなさんの作った句は、学校が再開したら発表してもらいます。サボテンや小野道風（道風くんを含む）のように、誰もが知るものだけでなく、「春日井ってそんなこともしていたの？」「そんな面白い歴史があるの？」と、聞く相手をうならせるような力作をお待ちしております。それらを集めて『春日井独自のカルタ』が出来ないか、というのが先生の考えです。

これも、知多中学校の総合的な学習の時間の一環で「地域との連帯」です。どうせなら、自分が生まれ育ったまち（これから暮らしていくまち）を好きになってほしい。そこにある魅力を知ってほしい。そんな気持ちです。



「春日井市の良いとこ川柳」について

- ・春日井市の良いところ、市外の人に知ってほしい魅力などを盛り込むこと。
- ・目標は1人3句。「そんなこと知らなかった!」という驚きのあるものだと最高!
- ・リズムは5・7・5を基本とする。ただし、字余り、字足らずも可。
- ・先生たちも考えます。みなさんの力作を楽しみにしています。

